

義務教育学校 飛島村立飛島学園
特色ある教育活動



飛島村教育委員会

目 次

確かな未来を拓く ～4－3－2区分の9年制 学び、つながり、挑戦する9年間～

1

飛島未来探究科 ～「考える力・共に創る力・やり遂げる力」で身近な世界から広い世界へ羽ばたく～

2・3

英語教育 ～英語によるコミュニケーション能力を育てる～

4

プログラミング教育 ～ICTの効果的な活用 楽しみながらプログラミングを学ぶ～

5

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）～保護者・地域と共にある学校づくり～

6

働き方改革 ・ 食育の推進 ・ 安心安全な登下校支援

7

飛島村が2006年（平成18年）から小中一貫教育に取り組み始めて19年が過ぎました。施設分離型小中一貫教育から、2010年（平成22年）には施設一体型小中一貫教育、そして2020年（令和2年）4月から義務教育学校に移行しました。新型コロナウイルス感染症の流行とともに始まった義務教育学校も5年目が終わろうとしています。

現在、義務教育学校として9年間を見通した教育課程を工夫することで子どもたちの確かな学力の定着を図り、異学年交流や地域との交流など多様な交流を通して、豊かな人間性と社会性を育てています。また、時代とともに必要とされる教育にも前向きに取り組んできました。そして、すべての教職員が卒業時の子どもたちの姿を思い描き、9年間の教育に責任をもって取り組んでいます。この機会に、義務教育学校としての5年間の取組を整理し、振り返ることで、今後の取組に活かしていきたいと思っています。

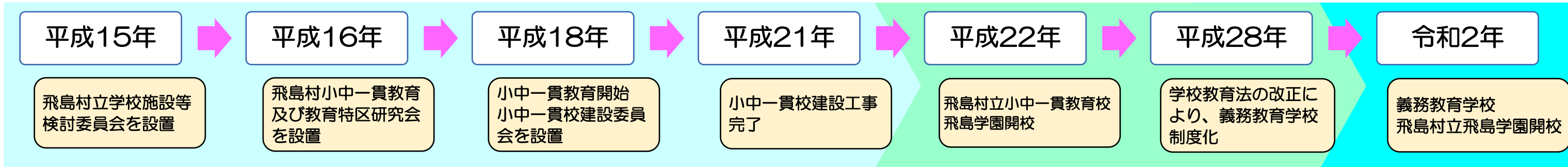
これからも、コミュニティの中心、地域の人々の心のよりどころ、そして、村の将来を支えていく貴重な財産である子どもたちが成長する場として、飛島学園が輝き続けられることを願っています。

令和7年3月



確かな未来を拓く ～4－3－2区分の9年制 学び、つながり、挑戦する9年間～

① 義務教育9年間を小中一貫教育校から義務教育学校へ



② 飛島学園の方針

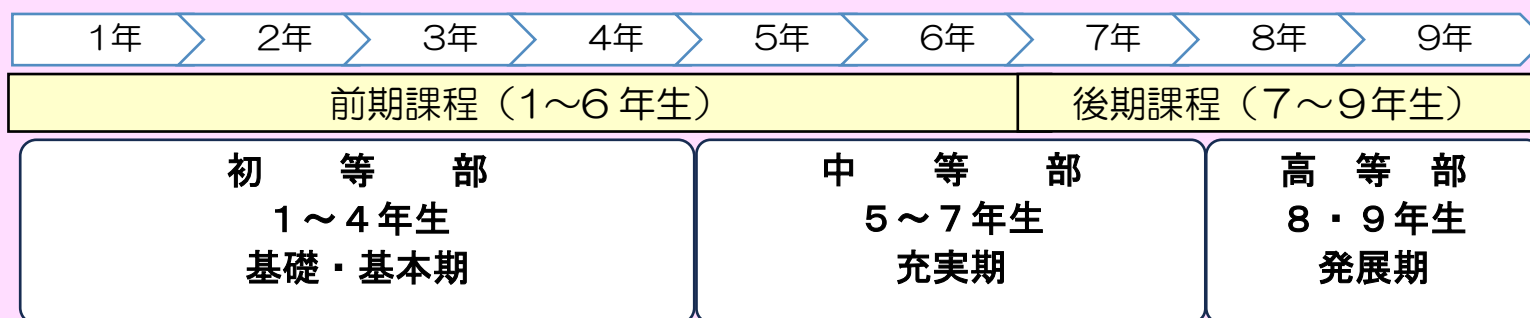
校訓 確かな未来を拓く

教育目標 一人一人が活躍し、たくましく生きる生徒を育てる

- ・生徒のすぐれた個性を伸ばし、「知・徳・体」の調和のとれた人間形成を図る
- ・一人一人が確かな学力を身に付け、生涯にわたって自ら学び続けようとする態度を養う
- ・ふるさとを愛する心情を育み、社会の発展に尽くす態度を養う

目指す生徒像

ふるさとに学び、仲間と共に未来を切り拓き、たくましく生き抜く生徒



学級担任制

教科担任制

9年間を見通した「4・3・2年制」の区分による系統的・計画的な教育活動の実施

9年間の教育を3段階でステップアップさせ、目指す生徒像へ成長させます

初等部では学級担任制を基盤に、基礎・基本の徹底を図ります。合わせて学習習慣や生活習慣など、学園で学習・生活するための基礎を身に付けさせていきます。一部教科担当教員による授業を実施し、中等部に向け少しずつ教科担任の授業を増やしていきます。

中等部の5・6年生では教科担任制を取り入れています。教科担任と学級担任とのT.T授業も行い、生徒一人一人の学力の定着を図り、7年生に向けて完全教科担任制に移行していきます。国語、算数を除きT.T指導を充実させています。一部の授業では、前期課程の教員が引き続き教科担任を行う場合もあります。中等部のフロアは高等部生徒と共にしており、「中1ギャップ」の解消を図るとともに、中等部生徒により高い目標をもたせています。

高等部では、生徒一人一人に合わせてさらに発展的・協働的な学びを展開します。生徒の個性や能力をさらに伸ばさせ、将来の夢の実現に向けて努力する生徒の育成を図ります。

③ 9年間で学力向上と豊かな心の醸成に取り組めます

外国語活動・英語教育の充実

前期課程（1～6年生）では、英語専科教員とALTで授業を行います。後期課程（7～9年生）では、教科担任とALTで授業を行います。より実践的な英語教育が展開できるよう協働して授業づくりをしています。



ICT学習（プログラミング学習）

1人1台端末を活用し、1年生から年間10時間程度のプログラミング学習を行います。ブロックプログラミングからロボット操作へと9年間かけて学びを深めていきます。

飛島未来探究科（TOBI探 生活科・総合的な学習）

1～9年生が系統立てて取り組めるように工夫したふるさと学習です。PBL（課題解決型学習）を中心に実践しています。9年生では1人1テーマを設けて課題解決をし、地域に発信することを目指します。



学力向上の取組

9年間を見通した系統性・連続性のある学習指導の充実を図ります。中等部から教科担任制を取り入れ、より専門性の高い魅力ある授業を展開しています。

キャリア教育

将来を意識し、自分の得意分野等をしっかり見つめて進路を考えていくために、1年生から9年生の全教科で系統性をもたせたキャリア教育を推進します。



食育

地域の生産者による減農薬野菜を使用した給食、健康を考え自ら進んで望ましい食習慣を身に付けることができるようにするなど、食に対する感謝の気持ちを育む場を設けます。

飛島未来探究科 ～「考える力・共に創る力・やり遂げる力」で身近な世界から広い世界へ羽ばたく～

【飛島未来探究科について】

予測困難で唯一解がない社会の担い手となる生徒が、自分たちの手で未来を拓いていくために必要な力を身に付けることをねらいとした独自教科が、「飛島未来探究科」です。

飛島未来探究科では、「9年間で積み上げる」ことを全職員が意識し、「思考力（考える力）」「共創力（共に創る力）」「遂行力（やり遂げる力）」という3つの力の育成を目指します。ふるさと教育を軸とした学習内容、探究を意識した学習活動（学び方）を通して、義務教育学校としての特色を活かした学習を進めていきます。

※生活科と総合的な学習の時間及び、テーマにより各教科との横断的なカリキュラムマネジメントを行い、学びを深めていきます。

【飛島未来探究科の歩み】

令和4年度（準備）

新設科「飛島科（仮）」について検討開始

検討委員会立ち上げ（4回）

先進校の取組調査・作業部会（6回）

PBL（課題解決型学習）先進校である名古屋市立矢田小学校を視察（3回）

全職員に周知・教科名の決定（3月）

令和5年度（試行）

新設科「飛島未来探究科（通称：TOBI 探）」の試行開始

各学年の実践と修正

先進校（名古屋市立矢田小学校、矢田中学校）公開授業参観

大阪市立義務教育学校生野未来学園「IKUNO未来科」公開授業参観

品川区立義務教育学校豊葉の杜学園「市民科」視察

令和6年度（本格実施）

ふるさと教育を軸とした飛島未来探究科の本格実施、9年生発表会開催

探究学習の主なテーマ

1年生

2年生

3年生

4年生

5年生

6年生

7年生

8年生

9年生

学園探検

「学校だいすき」

村探検

「村たんけん隊」

地域

「村北部農業地帯」

環境

「村の環境活動」

産業

「村南部工業地帯」

防災

「村の防災対策」

キャリア

「職業観の育成」

国際理解

「飛島から世界」

未来展望

「未来を拓く力」

ふるさとに親しむ

ふるさとを知る

ふるさとを見つめる

ふるさとに貢献する

『 身 近 な 世 界 か ら 広 い 世 界 へ 』

飛島未来探究科で育む 3つの力

「思考力」（考える力）

疑問や課題を見出したり、最適解や納得解を自分なりに考えたりしていく「思考力」

「共創力」（共に創る力）

様々な人とかわりながら、よりよいものや新たな価値を生み出していく「共創力」

「遂行力」（やり遂げる力）

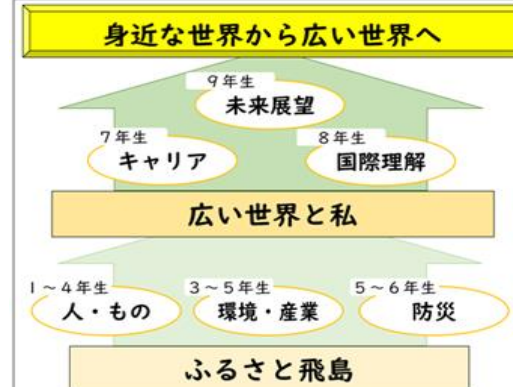
自他の思いを具現化しようと挑戦し、課題や困難に打ち克ちながら前進していく「遂行力」

どのような力を身に付けていくのかを明確にし、ふるさと教育を軸とした学習内容、探究を意識した学習活動（学び方）を展開します。

飛島未来探究科の学習内容

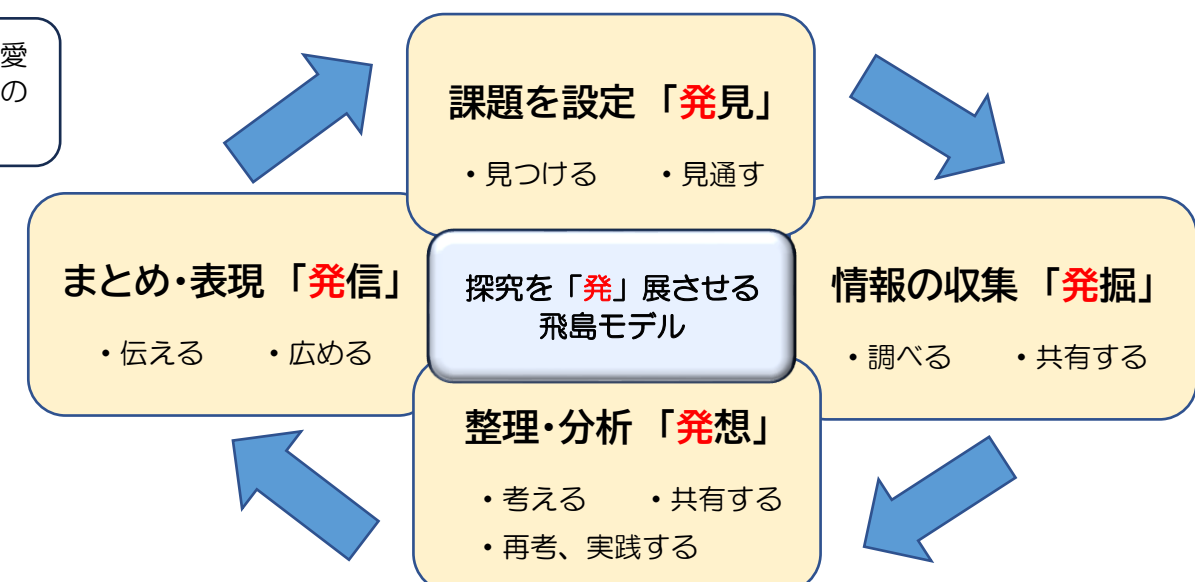
前期課程においては「ふるさと飛島」をテーマ（学習の柱）に、多様な視点から飛島村に関する学習を進めます。後期課程においては「広い世界と私」をテーマ（学習の柱）に、自分の未来や社会に対して視野を広げる学習を進めます。

9年間でこれらの学びを積み上げることで、飛島村への郷土愛を育むとともに、自分や地域・社会の未来に対する意識や社会の一員としての自覚を高めていきます。



飛島未来探究科の学習活動（学び方）

飛島未来探究科では、どの学年も同じ学び方で学習を進めます。生徒が同じ学び方を繰り返し経験し、探究的な学び方を身に付けることができるように、「飛島モデル」に沿って学習を展開します。



飛島未来探究科 ～「考える力・共に創る力・やり遂げる力」で身近な世界から広い世界へ羽ばたく～

R6年度 9年生「防災」の取組

8年生の「海外派遣発表会」の後、9年間のまとめとして、一人一人が課題を設定して探究学習に取り組みます。令和6年度は学年テーマを「防災」とし、同じ課題ごとにグループをつくり課題解決に取り組みました。



段階	主な学習活動	内 容
「課題の設定 発見」	○テーマや問いの設定 ○自分のテーマや問いを決める ○問いの焦点化	・防災に関する疑問・気になること等を出し合う ・似た意見をカテゴリー化する ・調べる内容や方法について見通しをもつ ・似た問いを考えた級友とグループを組む
「情報の収集 発掘」	○実際に調べる ○調べた内容を級友や保護者と共有 ○外部の方の話、施設見学をする ○問いに対する必要情報や根拠の収集	・インターネットや本で調べる ・似た内容ごとに仮グループをつくって共有 ・共同編集ソフトに内容をまとめて学級全体で共有 ・保護者から疑問やアドバイスをもらう ・総務課・教育課の方の講話 ・避難所や防災センターの見学 ・足りない情報を収集する ・自分のグループの問いを解決したり考えをまとめた りするために、必要に応じて、再度外部の方と連携 （総務課・保健環境課・防災マイスター・ 飛島ショックン・消防署）
「整理・分析 発想」	○問いに対する考えを構築・具体化 ○問いに対する考えをまとめる	・調べた内容を基に考えを構築して級友と共有 ・外部の方と考えを共有 （総務課・防災マイスター・東日本震災の被災者） ・問いに対する考えを具体化して試行や実践 例：避難所でもできる体操の開発 避難所の簡易テント設営実験とレクチャー 保育所への防災出前授業と避難訓練実施 ・試行や実践を活かして発表資料を作成
「まとめ・表現 発信」	○学校運営協議会の方への発表 ○地域への発表（最終発表）	・意見やアドバイスをもらう ・地域の方、お世話になった方、保護者や下学年生徒 に発表 ・発表方法や内容はそれぞれ工夫



発掘：調べた内容を共有



発掘：村の防災を知る会（総務課）



発想：防災出前授業（保育所）



発信：学校運営協議会の方への発表



発信：飛島未来探究科 9年生発表会

発想では、調べた内容を持ち寄り、情報を共有しながら、自分たちが立てたテーマに対する考えや提案づくりを行いました。また、地域の方をはじめとした外部の方のアドバイスを生かして構築した自分なりの考えの実践や検証を行いました。

飛島未来探究科 9年生発表会

目指せ！防災力アップ！守ろう！自分・地域の未来！
～私の考える防災～

<ブース発表>

- | | |
|---------------|---------------|
| 1班 【人とペットの健康】 | 2班 【避難所】 |
| 3班 【搬送・救助】 | 4班 【楽しく防災】 |
| 5班 【防災基礎知識】 | 6班 【体験・防災グッズ】 |

R6年度 6年生「防災」の取組

段階	主な学習活動	内 容
「課題の設定 発見」	○災害とは何かを知る ○外部の方の話、施設見学をする ○自分の問いを決める ○問いの焦点化	・インターネットや本で調べる ・調べたことを防災新聞にまとめる ・愛知県建設局土木部建築企画課の方の講話 ・避難所の見学 ・調べる内容や方法について見通しをもつ ・同じ通学団とグループを組む
「情報の収集 発掘」	○実際に調べる ○調べた内容を級友や保護者と共有 ○外部の方の話、施設見学をする ○問いに対する必要情報の収集	・通学路デジタル防災マップ作成のため、まずは自宅周辺について、保護者と調査活動を行う ・保護者からアドバイスをもらう ・通学団ごとにグループをつくり共有 ・加藤建設の方の講話（液状化現象について知る） ・村の災害に対してさまざまな課題と、フィールドワークの重要なポイントを知る （教育課・学校運営協議会委員）
「整理・分析 発想」	○問いに対する調査をする ○外部の方の話、施設見学をする ○問いに対する考えをまとめる	・通学路デジタル防災マップ作成のため、敬老会の方とフィールドワーク実施 ・敬老会の方から、過去の災害、事故について地元の話を聞く ・通学団ごとに通学路デジタル防災マップを作成（プログラミングアプリのScratchを使って作成） ・防災に関する課題を解決するために必要な情報を分析 ・自分のグループの疑問を解決するために再度外部の方と連携して足りない情報を収集して、よりよい内容や効果的に伝える方法を考える （総務課・建設課への質問会）
「まとめ・表現 発信」	○敬老会の方への発表 ○下学年生徒への発表 ○保護者への発表（最終発表）	・意見やアドバイスをもらう ・下学年生徒と防災交流 ・保護者に発表 I C T機器を活用して発表資料を作成



発見：建設局土木部の方の講話



発想：フィールドワーク



発想：敬老会から地元の話を聞く会



発想：総務課・建設課への質問会



発信：敬老会の方への発表

家庭・地域連携

【家庭との連携】

- ・P T A活動の活性化の推進
- ・家庭への情報発信
- ・家庭学習と授業の連携

【地域との連携】

- ・学校運営協議会の活動の充実
- ・地域素材、地域人材の活用
- ・地域への情報発信（飛島未来探究科発表会）
- ・保育所、保育園との連携



英語教育 ～英語によるコミュニケーション能力を育てる～

飛島学園では、グローバル化・多様化する国際社会でたくましく生き抜くことができる生徒を育成するために、英語教育に力を入れています。学園には村費雇用専科教員1名とALT2名が常時勤務しています。1～9年生の成長段階に合わせた英語教育を推進しています。また、保育所の年中・年長児向けの英語教室を、学園ALTが出向いて行っています。

外国語・外国語活動のカリキュラムについては、学習指導要領に基づくコア・カリキュラムに加え、オンライン英会話や英語AIアプリの活用、英検受験等、学んだ英語を試す場を設けています。また、平成3年度から始まった村の海外派遣事業に8年生が参加し、ホームステイや学校交流等を通して身に付けた英語力を試します。その経験は、さらに英語を学びたいという思いを高めます。

飛島学園の英語教育の歩み

平成18年度～平成19年度

構造改革特別区域研究開発学校設置事業として、小学校に「英語科」を新設、中学校の外国語科の時数を増加（小学校英語科の教科担任制）。村費によるALTを配置。

平成20年度～平成30年度

構造改革特別区域研究開発学校設置事業の変更により、教育課程特例校の指定を受け、英語教育の充実を図る。

平成30年度～

新学習指導要領に向けた移行措置開始により、小学校3・4年生に外国語活動、5・6年生に外国語を新設。教育課程特例校の指定を外す。「イングリッシュタイム」の時間の設置。

令和5年度～

オンライン英会話（5～9年生）、英語AIアプリの導入。「特別外国語活動」の実施。

段階

就学前

1・2年生

3・4年生

5・6年生

7～9年生

であう

ふれる

ひろげる

たのしむ

いかす

毎週火曜日 英語教室を実施
学園ALTが指導

隔週1時間 外国語活動を実施
村費雇用専科教員とALTが指導

週1時間 外国語活動を実施
村費雇用専科教員とALTが指導

毎週2時間 外国語の授業を実施
村費雇用専科教員とALTが指導

週4時間 外国語の授業を実施
教科担任とALTが指導

学ぶ場



保育所ALT派遣

英語AIアプリを活用した朝学習（月曜日・水曜日）

英会話で異学年交流『イングリッシュタイム』（毎月1回）

担任とALTで行うALL Englishでの『特別外国語活動』を実施（毎月1回金曜日）

生かす・試す場

オンライン英会話（5～9年）

英検 Jr（5・6年）

英検 IBA（7年）英検（8年）

海外派遣事業参加（8年）

英語教室（8年・英検・ホームステイ）

月・水曜日の朝学習や英検対策で英語AIアプリを活用しています。発話、単語理解、文法など生徒の学びたいことに合わせて自分で選択して学習します。

中・高等部では、外国人講師と生徒をオンラインでつなぎ、マンツーマンの英語レッスンを行います。フリートークも取り入れて、身に付けた英語を試す場にもなっています。

海外派遣に参加する生徒を対象に、英語教室（ホームステイ）を実施しています。また、英検を受検する生徒向けの英語教室（英検対策）を実施しています。



英語（外国語）の授業



英語AIアプリの活用



オンライン英会話



イングリッシュタイム

月に1回、英語を使った異学年交流を実施しています。毎回トークテーマが提示され、生徒は積極的に会話を進めます。教師も生徒の輪に入り、共に英会話を楽しみます。



海外派遣事業に参加

飛島村では平成3年度から8年生（中学2年生）の希望者をアメリカに派遣し、友好都市のリオビスタ市でホームステイを行ってきました。コロナ禍を経て、令和5年度からは行き先をオーストラリアに変更しました。ホームステイや学校交流等が、身に付けた英語力を発揮する場となっています。

前期課程の授業は、村費雇用専科教員とALTが行います。後期課程は教科担任とALTが進めます。

英語教室（ホームステイ・英検対策）

プログラミング教育 ～ICTの効果的な活用 楽しみながらプログラミングを学ぶ～

GIGA スクール構想により、1人1台端末（学習者用タブレット端末）が導入されました。飛島学園では、この端末の活用と、生徒のプログラミング力の向上を目指し、1～9年生まで楽しみながらプログラミングの基礎的技能の定着を図るカリキュラムを作成し実践しています。

1年生から7年生は年間10時間程度のプログラミング学習の時間を設け、8年生ではカワサキロボットスクール（川崎重工業弥富工場内）での体験学習に出かけます。また、8・9年生は技術科の授業でプログラミング学習を行っています。

これらの学習で学んだ技能を、飛島未来探究科（TOBI 探）をはじめ、他教科の学習で生かし、ポップアップマップやデジタル広告などの作成をしています。

飛島学園の ICT 導入の歩み

平成 22 年度

新校舎建設に合わせ、コンピュータ室にデスクトップ型 PC（40 台）を設置

平成 27 年度

コンピュータ室の機器の入れ替えを行い、タブレット型 PC（41 台）に変更
タブレットを活用した授業研究開始。村費雇用 ICT 支援員の配置

令和 2 年度

GIGA スクール構想に伴い、1人1台端末（学習者用タブレット端末）と教室用大型モニタを導入
月・木の朝学習でプログラミング学習タイムを導入。タブレットを活用した授業の推進

令和 5 年度

家庭学習に活用するためにタブレット端末の常時持ち帰りを開始

令和 6 年度～

1年生から9年生までの系統的なプログラミング学習計画作成、実施

1・2年生

3・4年生

5・6年生

7～9年生

ブロック・プログラミング

フィジカル・プログラミング

ビスケット

スクラッチ

ロボホン

マイクロビット

他教科の学習に活用

技術科の学習

Code.org（コードオルグ プログラミング練習用教材）

8年生は、1日をかけて大型ロボットを動かすプログラミング学習を行います。

プログラミングの学習には、学園に派遣されている ICT 支援員が授業のサポートをしています。授業計画段階から関わり、ハード、ソフト両面からのフォローがあり、教師も生徒も安心してプログラミング学習に取り組むことができます。

初等部は、ブロックプログラミングを中心に学習します。主にビスケットやスクラッチを使います。3年生からはロボホンを扱い、フィジカルプログラミングへと移行していきます。



中等部は、主にマイクロビットを使います。マイクロビットのセンサー機能について知り、光らせたり音を出させたりするためのプログラミングをします。マイクロビットの特性を生かしたプログラミング力を身に付けていきます。



高等部は、技術科の授業の中でプログラミングを学びます。また、8年生はカワサキロボットスクール（川崎重工業弥富工場内）にて、6軸多関節ロボットの操作研修に出かけ、実際の産業ロボットの仕組みとプログラミングを学びます。

実践例

2年生
国語「スイミー」の学習で、ビスケットを利用し、黒いスイミーを中心に赤い魚が集まってくる様子をプログラミングしました。



6年生
飛島未来探究科の学習で、防災マップを作りました。スクラッチを使い、アイコンをタップするとその情報を見ることができるポップアップマップを作りました。



9年生
技術科の学習でプログラミングを学習しています。ここでは、双方向性のあるコンテンツについてプログラミングをし、実際にやり取りをしました。



学校運営協議会（コミュニティ・スクール）～保護者・地域と共にある学校づくり～

学校と地域が育てたい子ども像や学校が抱える課題を共有することで、学校の教育課程の改善・充実や地域の参画による多様な教育活動の実施を推進します。

○地域の方が学校運営に参画する学園コミュニティ・スクール

スポーツ団体、文化団体、企業、PTA、民生委員などの各団体の代表の方々が学園の課題や地域からの期待、目指す生徒像及び育成する資質・能力について共有し、目標達成に向けて熟議を重ね、協働して活動します。

○地域の方が学園の教育活動を支援する学校運営協議会

学校運営協議会委員の方々が所属する団体やボランティア組織、また地域の方などが必要に応じて学習支援や環境整備を行っています。

飛島学園コミュニティ・スクールの特徴



学校運営協議会の進行をCSコーディネーターが担当しています

会議の様子

地域と学校を結ぶコミュニティ・スクール・コーディネーター

コミュニティ・スクールの円滑な運営を行うために、コミュニティ・スクール・コーディネーター（CSコーディネーター）を配置しています。CSコーディネーターは、会議の取り回しやコミュニティ・スクール通信の発行、学園と各ボランティア組織・団体との連絡・調整を行います。また、学校支援サポーターへの参加についての募集、調整を行います。

コミュニティ・スクール通信 No.1

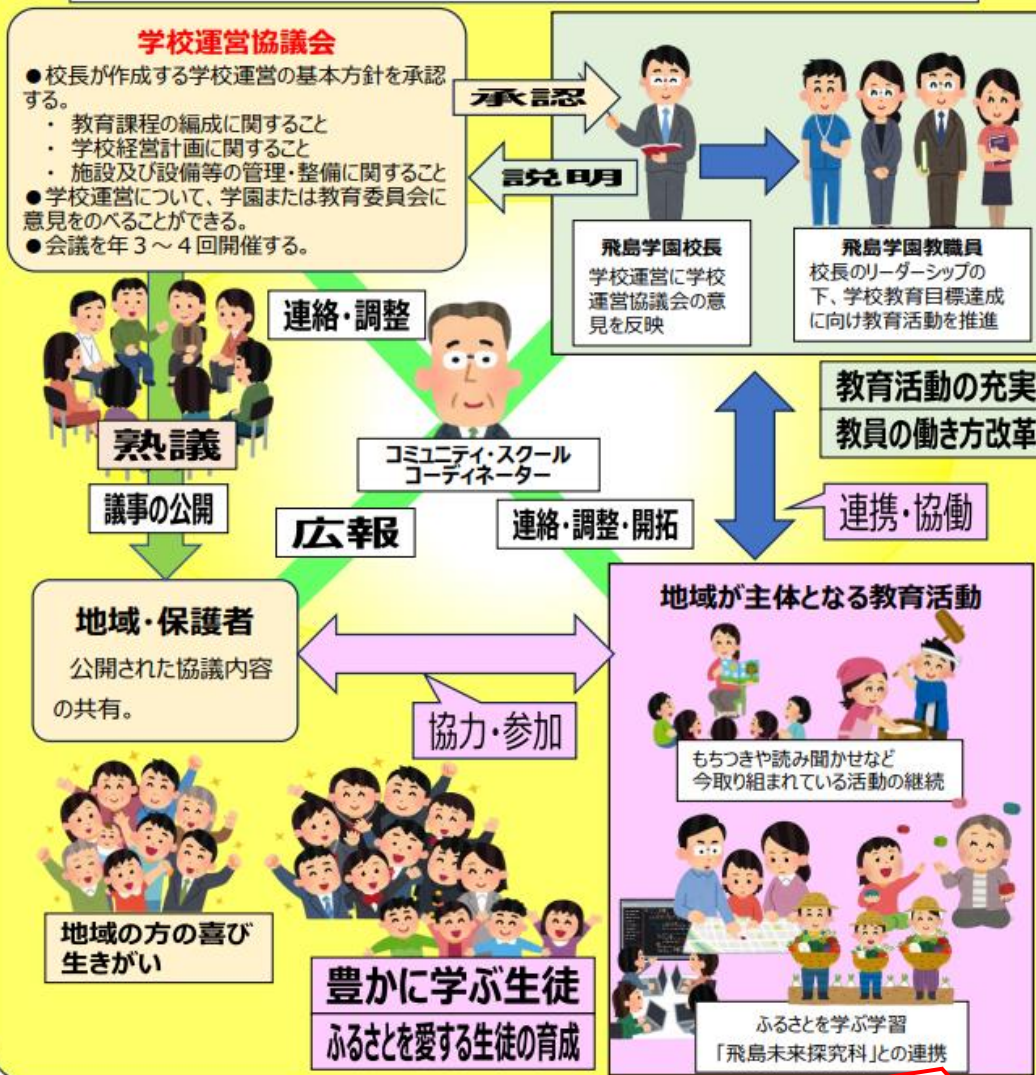
令和6年5月13日 発行
飛島村教育委員会 CS事務局

いよいよ、飛島学園コミュニティ・スクール ☆スタート！

コミュニティ・スクールとは、学校代表と地域代表で組織する「学校運営協議会」を設置し、学校運営の基本方針を共有し、学校や子ども、地域とともに「学校づくり」をすすめていくコミュニティ・スクールについては、年度当初に配付の「コミュニティ・スクール」及び学園HPの「コミュニティ・スクール」が発行しています

学校運営協議会委員は12名で、会長・副会長をおいています

一人一人が活躍し、たくましく生きる生徒の育成



国が提唱している地域学校協働活動本部と学校運営協議会を一体化して進めていきます

コミュニティ・スクール導入までの歩み

令和5年度

- 6月 学校評議員会にて学校運営協議会の導入について説明
第1回コミュニティ・スクール学習会を実施
CSマイスターによる講義を受講（教育課職員・学園職員）
- 7月 第2回コミュニティ・スクール学習会を実施
先進地（北名古屋市）の取組について説明を聞く（教育課職員・教育委員・学園職員）
- 10月 学校運営協議会委員の選定、依頼開始
先進地視察（いなべ市立藤原小・中学校）
- 12月 第1回学校運営協議会準備委員会を開催
2月 第2回学校運営協議会準備委員会を開催
- 3月 教育委員会にて飛島村学校運営協議会規則の承認

令和6年度～

学校運営協議会委員12名が委嘱され、コミュニティ・スクールとして出発

年間を通しての活動



読み聞かせ



登下校見守り

コミュニティ・スクールの活動



通学路点検(防災マップ)



村探検



ふれあいもちつき会



飛島音頭練習会

学習・活動サポート

働き方改革

飛島学園では、教師のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として、働き方改革を進めています。

休日部活動の地域クラブ活動への移行



令和6年9月より休日の部活動を地域クラブ活動として、業者に委託しています。※運動部活動（野球部、サッカー部、女子ソフトテニス部、男子卓球部、女子卓球部、女子バスケットボール部）
教員の負担、勤務時間は大きく減少しました。

子どもたちからは、「工夫した練習方法が楽しい」、「教え方が分かりやすい」、「（指導員の方が）積極的に話しかけてくれて話しやすい」などの声が聞かれました。

保護者の方からは「専門的な指導を受けられるのがよい」、「学園の先生から指導者が変わることを心配したが、子どもが楽しそうに活動をしていて安心した」といった声が聞かれました。



人的配置 村雇用の非常勤講師、図書館司書、支援員等

人的配置により、「時程内の会議設定」「低学年からの教科担任制」「臨時免許での授業者0名」等が実現しています。

時程内の会議設定

企画委員会、運営委員会、生徒指導部会、学年会を時程内に位置付けることができ、学園全体で連携を取りながら、教育活動を行うことができます。

低学年からの教科担任制

1、2年生から少しずつ教科担任制を取り入れ、中・高等部は教科担任制となっています。またTTの授業も多く設定することができています。

臨時免許での授業者0名

臨時免許で授業を行うことなく、専門的な知識をもった教員が授業を行うことができます。

ICTを活用したペーパーレス化等

週1回の運営委員会、月1回の職員会議等の資料をPDF化してデジタル化することで、会議のペーパーレス化を図っています。資料印刷や配付の時間を削減することで、効率のよい働き方を進めます。

また、オンライン掲示板を活用して職員連絡をすることで、打ち合わせ時間を削減しています。

令和6年度より、保護者の方からの欠席連絡について、オンラインも活用しています。始業前のあわただしい時間帯での電話対応の時間が削減されました。

また、保護者の方にも学校の始業時刻を気にすることなく連絡ができると好評です。

食育の推進

飛島学園では、以下の3点を重点として、食育を進めています。

- ① 健康を考え、自ら進んで望ましい食習慣を身に付けることができるようにする。
- ② 日常生活の食事について、手洗いの励行や衛生的な配膳、マナーに気を付けて、気持ちよく会食する態度を育てる。
- ③ 給食に携わる人々や自然の恵みへの感謝の気持ちを育む。

減農薬野菜給食



【減農薬野菜提供者の皆様に感謝する会】



【減農薬野菜給食】

令和3年度より、①給食の安全性を一層高める②食を通じて地域を理解する③食文化の継承を図る④自然の恵み、勤労の大切さを理解することを目的として、地域の皆様に協力していただき、減農薬野菜（特別栽培農産物）を用いた給食を年10回程度実施しています。

お魚チャレンジデー



【給食委員による劇の様子】

魚の献立の日に量を減らしたり残したりする生徒が多いことから、令和3年度より月に1回「お魚チャレンジデー」を設けています。

給食委員による劇やクイズを行うなど、魚に親しみ、好きになれるような取組を行っています。

給食費無償化

令和5年から、前期課程・後期課程のすべての生徒を対象に、保護者の負担軽減を図るために給食費を無償にしました。

安心安全な登下校支援

地域の方々などの協力を得て、より安心安全な登下校ができるような体制を整えています。

通学路指導員



【顔合わせ会】



【情報交換会】

通学路の定点で指導をしています。「顔合わせ会」「感謝を伝える会」での交流も行っています。また、「情報交換会」で危険箇所の確認を行うなど、生徒が安心安全な登下校ができるような体制づくりをしています。

遠方通学支援バス



【大宝地区
遠方通学支援バス】

令和5年度に試行運転を開始し、令和6年度から本格実施しました。遠方から通学する前期課程の生徒を対象に、熱中症対策として支援バスの運行を行っています。

2025年3月

発行：飛島村・飛島村教育委員会

〒490-1436

愛知県海部郡飛島村竹之郷三丁目1番地